

# 大きな鮪船を操船して世界の海へ 海の男を大募集!

気仙沼船主協会

震災後、全国から乗船希望が急増、震災後のこの二年で二十三名が大海原へと出漁して行った。乗船者の半数は転職者で三十代も少なくないが中卒乗船者も数名活躍している。

乗船希望者は震災を機に広がりを見せているものの新聞等で報道されているが何も震災だけがキッカケでない。気仙沼船主組合に勤務して二十二年間、吉田鶴男さんは東北を中心に全国にアンテナを張り、各地の水産高校を始め、ある時は自衛隊へ若者達が集まるジョブカフェや近海遠洋漁船の募集が出せないハローワークにもセッセと通い長い間、地道に募集活動を展開

して来た。それが今、顕著に成果が出て来たのだと言える。

実はマグロ船に乗船希望者が増え始めたキッカケは平成二十二年に第八昭福丸に乗船した宮崎県出身の今原隼人君のドキュメンタリー番組（KHB）が放送された直後からだと言う。リストラを受けたこんな若い青年が命を懸けてがんばっている事に感動しての応募が多かった。その後、全国鯉鮪近代化促進会がDVDを自主制作、全国の学校関係に無償配布した事も生徒達の胸を熱くさせた。今原君はすでに必要な乗船履歴を得ており船長資格取得を目指している。震災前は応募者ゼロの年が数

年続いた事もあったが年に二名程の希望者もあった。そんな中震災に遭遇、再びゼロになった。これが震災翌年の平成二十三年八月まで続き、翌九月頃から漁業復興の応援をしたと言う希望者が徐々に増えて来た。今年に入ってから大勢の乗船希望者が気仙沼港から出漁して行った。地元気仙沼からも乗船しているが地方からの応募者の報道にかき消されてはいるが地元出身者も皆がんばっている。

問い合わせ先 気仙沼船主協会 TEL/0226(22)0793 担当:吉田鶴男さん

気仙沼市は「海と生きる」事を宣言した。人（乗組員）が産業の歯車（エネルギー）となり、育成する事が大事であり、今後側面から支援して行きたいと吉田鶴男さんは語る。3K4Kと言われるマグロ船は敬遠され易い。自分の職業は与えられた転職であり、やりがいのある仕事だと長年、乗組員募集活動をして来た吉田さんは乗船して行った若者たちを我が子のように愛おしく感じると言う。

気仙沼船主協会では随時、求人募集を行っているので希望する方や詳しい話を聞きたい方は協会の吉田鶴男さんまでお問い合わせを頂きたい。

「経歴」「学歴」「縁故」。一切関係なし! 実力だけで成功をつかめ!

## 漁船員になろう!

世界の海が俺の職場だ!

だから安心して夢を追いかけられる!

この新人漁船員に続け!

山形県出身 21歳 【卒業後10年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】	宮城県出身 26歳 【卒業後10年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】
和歌山県出身 24歳 【卒業後7年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】	群馬県出身 31歳 【卒業後10年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】
宮城県出身 20歳 【卒業後5年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】	岩手県出身 18歳 【卒業後3年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】
福井県出身 18歳 【卒業後3年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】	新潟県出身 31歳 【卒業後10年経った今でも、漁船員としての誇りを感じています。】 【出漁は楽しく刺激的、勉強場です!】

宮城県北部船主協会付属船員職業紹介所  
（船主交際部東北連絡部）  
住所：宮城県気仙沼市港町508-2 船主第二ビル2F  
電話：0226-22-0793・22-6116  
メール：senkyo@uisout.ac.jp  
ブログ：http://gyosenin-boahu.net



▲新人船員を激励する船主協会会長と大勢の見送りの中、出漁するマグロ船

「みなと便り」2013年5月号より転載